

令和5年度第2回亀岡市まちづくり協働推進委員会 会議要旨

日時：令和5年11月10日 9：30～11：30
場所：亀岡市役所1階市民ホール

- 1 開会
- 2 開会あいさつ
- 3 協議

(1) 令和5年度実施事業及び予定について

事務局 資料に沿って令和5年度実施事業報告及び予定を説明
資料：令和5年度実施事業報告及び予定について

委員1

「ふるさと亀岡まちづくり応援交付金」について寄附の実績がかなり少ないという印象を持った。今年度の登録団体の募集に対して申請がないということも、NPO自体がこの地域には少ないという理由もあるかもしれないが、おそらく申請をするという事務的なコストに比べ、寄附があまり望めないということや、この制度を通した寄附では寄附額の3割相当が引かれるということが、他の自治体の類似制度や一般的な手数料からしても大きいのではないかと思っており、その3割がこの事業や市の協働推進の財源になるとしても、団体にとってメリットが少なく、制度そのものの再考が必要ではないかと思う。亀岡市の実施する他のふるさと納税を活用した寄附募集制度も含め、全て3割引かれることになっているが、これは条例かなにかで決まっているのか。この制度の寄附する側のメリットとしては認定NPO法人に寄附する以上に税制優遇が受けられるという点があるので、そういった面を押し出して広報を市の方でもされてはどうかと思った。こういった形で寄附募集をされているか分からないが、より多くの方にこの制度を知ってもらい寄附してもらおうことを考えると例えばふるさとチョイスが実施しているガバメントクラウドファンディングのプラットフォームといった既存のものも活用していた方が多くの方に見ていただけるのではないかと思う。

委員長

ふるさと納税の制度を使っているので、なかなかその大本の制度自体を変えるというのは少し難しいかと思うが、寄附額の3割が引かれるということについてのご意見に対して事務局はいかがか。

事務局

3割引かれる点については、条例等で決まっているのではなく、それぞれの交付金の要綱で決めている。この「ふるさと亀岡まちづくり応援交付金」は、「自治活動応援」と「学校応援」の後発でできた制度になっており、先発の二つの制度に揃えて3割にした経過があるので、なかなかまちづくり応援のみを3割から下げることは難しいと思っている。その3割については、制度の実施に事務費がかかるというところもあるが、亀岡市がまちづくり活動の政策として実施することにも使うというような形になっており、市民活動、協働に還元していく。

委員長

今のお話を聞くと、この委員会で割合を決定することは難しいと思うが、今出た意見については、他の同じ制度を実施している部署にもお伝えいただき、できるできないは別として検討いただけたらと思う。もう一つ、寄附するメリットの広報が少し足りないのではないかという意見については同じ思いで、せっかく時間をかけて登録いただいたのに、寄附実績がゼロというのでは、非常に寂しくやる気がなくなってしまうのではないか。事務局にお聞きしたいが、

実際に団体をご覧になっていて、団体がどうこの制度を利用しようとしているのか、感触やどのようなことを実践されているのか、分かる範囲でお教えいただきたい。

事務局

団体のSNSなどの広報や時々お話を聞いて状況を確認はしているが、去年も実績の多かった団体についてはSNSや関係者への手紙などで「こういう活動をしていて、寄附することで私たちの活動を応援できますよ」というような広報はとても積極的にされている。一方で、外から見ていて、広報に関しては全然声かけができていないのではないかと団体については、やはり実績が少ないというような傾向はある。広報を積極的にできていない団体は、説明が難しいというようなことをおっしゃるので、市としても団体に説明をしたり、先発の「自治活動応援」で、積極的に広報活動をされ、実績を上げられている地区の資料を参考にお渡しをしたりして、ストーリー性をPRして、寄附を呼びかけてもらいたいというご説明はしているが、なかなか団体からの広報が少ないとそれに伴って寄附も少ないという傾向はあるというような印象を受けている。

委員長

もう一つご指摘いただいた、寄附する側の市民に十分この制度自体が伝わっているのかという点について、市としてこの応援交付金事業自体をどの程度広報できているのか。

事務局

広報誌に掲載したり、年末にかけて市のLINEで市民活動に寄附しましょうと呼びかけたり、イベント時に寄附募集チラシを持っていったりはしているが、これだけアクションがないということは届いていない、浸透していないという印象ではある。

委員1

例えばかめおか市民活動推進センターのホームページで、12月の寄附月間に合わせて特設ページを作って登録団体を紹介したり、情報を取得する手段はやはりほとんどの方はスマホで、さらにLINEを使われている方が多いので、市のLINEで情報発信したりしていただくといいのではないかと思います。

委員長

この制度はまだ今年度2年目なので、現時点で抜本的に見直したりやめたりということではないと思うが、まずこのできた制度をどう市民、そして活動されている方々に知っていただくのか、そのためのアイデアや、ご自身の団体ではこのようなことができるというご提案はないか。私はアカウントを持っているSNSで発信しようかと思うが、そのような草の根の活動を作ることもとても大事かもしれない。

委員2

せっかく市民活動を紹介する冊子を作ったので、寄附募集チラシを挟み込んで配布したらどうか。また、寄附募集チラシだけでなく、今登録している団体が紹介されているものが一緒に入っている方が、漠然と市民活動というより、こういう団体が今登録しているという事が分かり、受け取った人にとっては具体的でよいのではないかと思います。

委員3

各団体が、事業を実施されていると思うが、アナログにその場で「こんな制度を使っている」ということを伝えるのが、目の前の人がされている事業なので応援しようとしてリアルに伝わると思う。人数的には少ないかもしれないが、やはり直接渡す、直接しゃべるということをそれぞれ、どれぐらいの頻度でされているのかとは思う。

事務局

大きなイベントをされる前に撒く用にとチラシを取りに来られたりということもあるので実践はされているかと思う。市からもイベント参加者には最低限渡してもらいたいというよう

なお願いはしているところだが、やはりふるさと納税のことで質問されると説明できないという尻込みがあるという意見も聞くので、慣れていってもらえたらとは思っている。

委員長

少し自虐的だが、今年度半分過ぎて7団体登録で、実績がいくらです、後半に向けて皆さんよろしく願います、と現状訴えるために実態を出してもらいたいかもしれない。

委員4

委員会で協議が盛り上がりながらも、一歩外に出るとご存じでない市民の方が非常に多い。子育て支援の仕事をしており、若いお母さんたちや自分の同年代の女性たちの間で、このような制度をご存知だろうかと思うことがあり、私自身もふるさと納税にあまり積極的でないが、でもやってみたら、知ってみたら案外そんなに難しいことではないのだろうということが多々あると思う。もう少しわかりやすく、ミドル世代、シニア世代にも伝える。ご本人たちが言われるのも大事だと思うし、市から制度の説明もわかりやすく伝えてあげるといことも必要かと思う。

委員長

ちなみにこの中で、この制度に限らずふるさと納税をしたことある方はいらっしゃるか。やはり実際には少ない。すると、今まで行政として作っていた補助金の金額、対象を絞り、各団体が自ら資金調達できる仕組みとしてこのふるさと納税を導入されたが、この制度でだけではだめかもしれないという現実が突きつけられているという捉え方もしていただいた方がいいのではないかと思う。今、クラウドファンディングが非常に流行っている。ボタン一つで、寄附ができ、リターンも明確でわかりやすい。場合によってはそれもセットで、もう一つのメニューとして進めていくという方法もあるかもしれないと思う。

委員5

実際団体が、ふるさと納税でお金をいただくことは要するにクラウドファンディングをしていることと同じようなことだと思う。であれば、この制度で手間暇がかかるのなら、自分たちで作りたいという方に行くのではないか。団体の人たちは練習がてらこの制度を活用して、次は自分の団体としてもこんなことをしていますというのを公開して、自分でクラウドファンディングをして寄附を募れば、寄附額のうち30%は市が活用するということがないし、直接応援してくれる人に繋がれる。

委員1

団体自身ももしかしたらこの制度のメリットをそこまで認識されていないのかもしれない。ふるさと納税の枠組みを使って募集するということは、市と一緒にやっている事業なので、市からお墨付きをもらって寄附募集をしていることになる。団体にとってはとても心強い寄附募集の方法だと思う。かつ税制優遇があるということは、寄附者にとってもかなりありがたい。例えば認定NPO法人であれば、独自に寄附を募集するぐらいの体力があるかもしれないが、そういうところばかりではないので、ぜひこの制度は縮小せずに、続けていっていただきたい。東京都港区や、文京区、佐賀県といったかなり良い例もあるので、そこを研究していてもいいのかと思う。

委員長

この制度、まだまだ途上ではあるが、市もそして市民も活用に向けてもう少し創意工夫を重ねていってほしいと思う。

続いて(2)令和5年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金については、審査会にこの委員会のメンバーも参加し、5団体が採択された。別紙に一覧表があるが、審査会に参加された方は、そのときの印象なり感想なりコメントがあればお願いしたい。私も審査に参加し、インスタで活動を拝見している団体があるが、とても楽しく頑張っているらしい、こういう若いお母さん方が頑張られたら、地域が変わってくるのかなと見ている。いい団体が出てきて、良い支援ができたと部分的だがそんな感想を持った。

委員 1

私も団体の SNS を拝見して力強いと感じており、このような団体がどんどんできてきて、課題が解決されていければ素晴らしいことだと思う。一方、市なり市民活動推進センターなりで、少し軌道修正をしていただいた方がいいのではないかなと思う活動もある。例えば、設定された課題に対する事業内容というのがあまりマッチしていない、もしくは、課題設定というところが少し違うのかなと思うものがあるので、話を聞いていただく機会があれば、少しディスカッションされるというのもいいのかなと思う。別の活動で課題として長期的にどう亀岡に人が定住していくか、継続的に関心を持っていただくかを設定されているが、事業内容が、少し一過性ではないかという印象を持つものもあり、せっかくプロジェクトを構成して活動を始めていただいたので、これをどう、課題につなげていくかというのは、市や市民活動推進センターの方で良い指導があったらいいのではないかなと思った。また、今後活動が軌道に乗れば、市と協働する体制に持っていければいいのではないかなと思った。

委員長

今おっしゃったように、中には将来的な課題というか、1年で解決される課題ではなく、10年、20年先にそれを解決したいというものがあると思うが、短期で何を達成するのかというところを明確にさせていただく。もしかしたら明確にされているのかもしれないが、それが伝わってこない。市民に伝わってこないことは残念なので、そこは市が伴走支援して、方向修正もしくは、取組内容の整理をやっていただいたらいいかなとは思った。

委員 2

団体として活動を活発にされているなというところは、結構見受けられ、例えばいろいろなイベントに出展されている団体もあるが、申請事業に関してはどうなのか分からない。また、事業を実施されてはいるが、こぢんまりした身内だけが参加するものになりつつあるのではないかと不安、懸念を持っている事業もある。実際の活動にあまり行けていないので、事務局の方で行かれている時の感想などお聞かせ願えたらと思う。

事務局

今のところ3団体については事業実施される時や内部で会議、打ち合わせをされている時に伺った。また全団体に交付決定を直接お渡ししており、交付決定に至るまでに委員会から出た、今あったような課題設定が曖昧だとか最終的な目標に対してやることの整理ができていないのではないかなという意見については伝えている。どの団体も、掲げたことを達成するために努力をされているという印象がある。助言をしたり、市の他事業と協力して事業を実施できるよう調整したものもあり、今後事業に伺うところについても今いただいた意見を伝えるようにしたい。

委員長

12月14日に中間報告交流会を実施するということだが。

事務局

広く広報して参加者を募る発表会のような形にはせず、それぞれ意見を出し合うような雰囲気になるかなと思うが、委員の皆さんも来ていただいて、活動へのご意見やフォローしていただければと思う。また、今出た活動に対するとも貴重なご意見は中間報告交流会の場で市の方から団体さんにはお伝えするので他にお気づきのことがあれば教えていただきたい。

委員長

ここにいらっしゃる委員の方々は、以前委員 8 から、メンター的な動きもできるのではないかなというお話をされていたので、積極的にこういう場にも来ていただいて、直接アドバイスいただいたらありがたいと思う。

(4) 市民参加型ワークショップの開催報告と予定ということで、まずは報告だが、ボンボンマルシェへの出展とそれから、市民活動紹介冊子ができたということで、とても可愛い素

敵な冊子ができたと拝見していたが、感想、ご質問、また次年度に向けて、ご意見をお願いしたい。

委員 2

ボンボンマルシェに行ったが、お客さんも多く楽しそうだった。委員 5 が大活躍されていた。

委員 5

本来は、支援金を活用して事業を実施している団体の方がいいのではないかと思ったが引き受けた。

木で遊べるものを持って行ったが結構反響があり、全体としては本当に大勢の方が来られて、興味を持ってもらって、遊んでいただいた。そこで、私の団体はこんなことをしてますよという話をたくさんしたのだが、これからどれだけ携わってくれるかどうかというところだ。支援金の活用団体に関して、別のイベント出展の様子をみたが、大盛況のところとあまり人が集まっていないところがあったので、何か工夫が必要ではないかと感じた。

委員長

市民に対して市民活動を知ってもらうのに、活動紹介だけよりは実際にワークショップなどで、参加者が体験できるようにするということが非常に大事だと、聞いていて思った。おそらく、関わってらっしゃる団体の方も楽しいと思う。

委員 2

ボンボンマルシェに参加して、市民活動だけでこじんまりと事業を実施するより、やはり他のイベントで展示や出展をしてもらうのが、確実に集客も多く、賑わいもあるのではないかと思ったので、内輪だけで事業を実施するのではなく、ぜひ外に出るような、PRや広報をお願いしたいと強く感じた。

委員 6

その通りだと思う。秋になるといろいろなところでイベントが開催されるが、そういったところでは、こういったワークショップ形式で市民の目にたくさん触れることができる。実際に行って体験するというのはやはり確実に広報効果があると思うので、市を通じて様々な団体が、例えば自治会で開催するイベントの中にも、市民活動のスペースを少し設けてもらうとか、そんなことをしていたら、地道にどんどん広がっていくのではないかと思う。

委員長

そういう意味では今回のボンボンマルシェの、市民活動団体ワークショップの開催というのは、一つ良い成功事例、モデルとなるものになったのではないかと思う。

続いて今後開催される、市民活動推進フォーラムについて、3月のまだ日も決まっていないということだが、生涯学習かめおか財団が開催するつながるフェスタの中で開催をしていきたいとご提案をいただいている。こちら最終的には市のほうで、具体的に決めていただけたらと思うが、まだ白紙の部分もたくさんあるようなのでぜひ、よりよい場を作っていくためのアイデアをいただきたいと思う。これは昨年度、博覧会として実施したものなのか。

事務局

博覧会に当たるものがボンボンマルシェへの出展で、こちらは昨年度も高校生や、活動の実践者の方に活動の発表をしてもらう市民活動推進フォーラムとして、他のイベントと一緒にではなく単独で実施した。ここで、本日欠席の委員 9 から事前にいただいた意見を紹介する。

委員 9 (欠席)

つながるフェスタ内での開催は、いったん反対です。つながるフェスタ内開催ありきで企画を組んだような印象を受けており、「つながる」や「多文化共生」のテーマ設定など、ちゃんと考えられたものなのか疑問に感じています。あくまで単独の企画としてちゃんと考え、同日・同場所開催だったとしても、ちゃんと考えた結果、それが効果的だからというものであ

てほしいと思います。

委員長

ボンボンマルシェで他のイベントに相乗りして、良かったので、じゃあ次もということで、もうちょっと考えて欲しいというようなメッセージが委員 9 から来たのかなという印象がある。

委員 7

市民活動推進センターの管理を受託しているが、つながるフェスタというのは、令和2年からガレリアかめおかの3階に多文化共生センターという機関があり、そちらの管理運営にも当財団で関わっており、昨年度初めて多文化共生、つながるというものをテーマにしたつながるフェスタを実施した。記念講演会を実施したりだとか、ホールの中で学生のいろいろな発表会も実施したのだが、引き続き今年度も実施していく予定であり、この4月から市民活動推進センターを管理するというので、せっかくの機会なので、市民団体さんとの交流の機会がなかなかない中で、当財団としても、市民活動事業はまだ実施していけないということもあり、年度当初から今年度のつながるフェスタに関しては多文化共生というテーマも一つありながら、市民活動団体との交流や、実践されている活動の発表というようなものも、たくさんの方が来ていただける場なので実施していけたらということがあり、同日に開催できたらということで今計画を進めている。推進センターとしては、年明けぐらいに現在90団体の登録があるので、団体との意見交換会の場を設け、つながるフェスタというイベントに、賛同していただける団体があれば、そういった団体にも参加していただき、団体とつながっていただくというイベントになればと今計画をして進めようとしているところだ。今後、市民力推進課とも協議を進めながら実施できたらと考えている。

委員 1

つながるフェスタは毎年どのくらいの実績があるのか。

委員 7

つながるフェスタは昨年度初めて実施したので、昨年度の実績にはなるが、記念講演会には300名程度お越しになり、各ブースには、その他たくさん来られ、昨年度のフェスタ全体の実績としては、確か600名程度だったと思う。

委員長

より多くの方に、見ていただく、関心を持っていただくという点では、先ほどボンボンマルシェの例もあるがコラボして開催するというのは大いにありがたかった。ただコラボと言いつつもその中でやはり個別の活動なので、市民活動推進フォーラムとして、この3月の事業で、何を目的・目標にして実施するのかという点は明確に提示していく必要はあるかと思う。

委員 1

市民活動推進フォーラム自体の目的は何か。

事務局

夏に実施する博覧会の方は、市民活動に対して全く興味、関心のない方に知るきっかけを持ってもらうことを目的にしている。市民活動推進フォーラムについてはどちらかというと、それよりはもう少し興味であったり、関心を持っている方をターゲットにしており、そこから、例えば他の団体と交流してもらうことで、より活動の広がり、深みや知識、スキルを上げてもらうという点に重きを置いている。

委員 2

せっくなので二つの事業を一緒にやる意味を明確にしておいた方がいいのかと思う。活動自体はそれぞれがきちんとあるが、わざとそこでコラボをする意味合いをはっきりとさせていけば、そんなに問題ではないと思う。

事務局

委員 9 のご意見でもおそらく多文化共生のほうに飲み込まれてしまうのではないかと、ところを心配していただいているのかということはあるので、独立した市民活動の推進という軸はブレないようにして、その上で同時開催というふうにしていく必要があるのかと思う。

委員 2

ただせっかく一緒にやるのだから、そこは一緒にやらないとできないことも入れ込まないと、意味が薄れるかと思う。例えば市民活動の海外での動向や、今年も基調講演的なことをされるならそういう人が来るといったことが必要かという気がする。

委員 1

多文化共生という言葉の響き自体がいいのかもしれないが、課題解決を目指す市民活動、NPO 活動とは少し違うかと思うので、つながるをテーマにするということは、いろんな団体の得手不得手が繋がって、コレクティブインパクトを生み出していけると良いと思うが、一見違和感ないような言葉の方に、飲み込まれていかないことを願う。

委員 8

この情報だけでは正直分らず、反対も応援もどっちについていいか分からないが、デザイン次第かと思っている。キーワードが「つながる」であれば、多文化共生も繋がりがあがり、また、活動団体にとって、応援者が少ない、一緒にやってくれる人が少ない、会に入ってくれないことが死活問題だと思っているので、発表することによって、来場者と繋がって、団体の人数が増えるといったプロデュースの仕方であれば、非常に有効ではないかと思う。また、会場内のゾーニングについては、テーマ性の中でゾーンを分けていくというやり方で、うまく来場者を誘導することができれば、非常にいい取り組みではないかと思う。数年前に市が実施した活動発表会に参加したことがあるが、限られた興味のある人しか来ないという現状の中で、市の助成金制度にチャレンジしていこうという人も増えないと思うので、上手にプロデュースできれば、有効な場になるのではないかと思う。

委員長

こちらのつながるフェスタは、多文化共生をテーマにした事業で、それと、市民活動をテーマにした市民活動推進フォーラムを同時開催することで、お互いにウィンウィンになる相乗効果が生まれるような創意工夫をもって進めていただくということで、皆さんからご意見を頂いた。ただ、現状では市民活動推進フォーラムは、何を柱にして実施していくのかというところが少し見えにくいところがあるので、委員 8 からの意見にもあるように非常に多様な人同士が繋がる市民活動でいうと、例えば市民活動団体と市民の方が繋がっていく、担い手が増えたり、応援者が増えていったりするとかいう柱を持って実施するなど、事業のコンセプトを明確にして、やっていただけたらと思う。場合によってはつながるフェスタ内での開催というか、二つの事業が対等な形で、開催するスタイルもあるかと思った。この件については、開催までにもう 1 回委員会があるので、その際にご意見をいただければと思う。加えて、より多くの方が参加いただけるようなご協力を皆さんにお願いすることになるかもしれないので、よろしく願いたい。

(2) 令和 6 年度はじめてのまちづくり活動応援プログラム

(亀岡市支えあいまちづくり協働支援金) について

事務局 資料に沿って令和 6 年度制度の変更案について説明

資料：令和 6 年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金 募集概要案

委員長

次年度の亀岡市支えあいまちづくり協働支援金の改善案をご提案頂いた。提案された内容に加え、他の部分でも改善のご提案があればお教えいただきたい。

委員 8

少し難しいかもしれないが、学生部門を設けられないか。せっかく大学もあるので学生によるまちづくり活動を支援するという事は難しいか。上限金額を下げる必要があるかもしれないが、審査の仕方や支援の仕方、企画書のプロセスだけ変えて、内容は基本的には同じでいいと思う。学生のサークル等で意欲的なところは自分たちの学習に繋がるということで先輩から後輩に受け継ぎながら、メンバーでなんかやっという取り組みが非常に多い。それを支援する制度として作られたら面白いんじゃないかと思った。

委員 1

賛成する。

委員 8

あえてそれを打ち出すことによって、何かチャレンジしようという若い子がこの制度を知り、盛り上がるのではないか。ここ数年、この制度を知っている一部の大人だけが使ってると感じている。若い力を提供していくことで、いろんな意味で相乗効果が出てくると思う。

事務局

すぐにそれが実現できるかは分からないが、検討はしたい。

委員 8

制度を変えることが難しければ、「学生も可」と書くだけでも違う。

事務局

学生に振り向いてもらえる広報のやり方もあるかと思う。

委員 8

構成員の要件だけ、亀岡市民ではない学生もいるので問題が出るかもしれない。学生の企画をたくさん受けていると、クオリティーが高くないものもある。ただ意欲を集めたいという点で学生視点が必要かと思った。

委員 2

学生を応援することについて賛成する。もう一つ、以前から継続にこだわらない、単発ものの支援金があってもいいかと思っている。きっかけづくりのために、学生部門も含めてチャレンジ部門みたいなのがあってもいいかということを感じている。

委員長

チャレンジ部門は他の自治体でやっているところもある。金額をもっと下げて、2万・5万円ぐらいで、手続きを簡略化してイベントやワークショップの実施を支援している。決められた予算の中でどう改善していくかということになってくるかと思うので、考え方の整理と工夫、もしくは予算の上積みを頑張っていただく必要もあるのかもしれない。継続性を謳うのではない一回の実施でも活動を支援しようというアイデアをいただいた。

委員 4

課題を見つけて、その解決のため、仲間をつくって活動をするということは私たちも目指していて、人件費の調達など、継続の難しさを身をもって感じている。本当にお金がなかなか集まらず、働いていらっしゃる方が多い中でスタッフも集らず、どこまでボランティアできるのかということになってくる。若い子育て支援に取り組まれる方は出産でいったん仕事を辞められたときに、自分が今解決したいと思っていることに取り組まれる。長くて2年の育休の方が多くなかでお客さんとしてはどんどん参加されるが、主になってやる方にもっていくのは難しいと思っている。女性が働くことが良いという風潮がある中で、きっかけづくりの単発の支援があるのはなるほどと思った。活動の継続にはしんどさもあり、これを若い方にさせるのは心苦しいが、一発屋のような気軽に取り組めるものをちょっと経験され、その中でじわじわ力を

つけてもらい、継続的な支援を3年ではなくて5年ぐらい伴走したらいいのかと思った。

委員長

現状を継続すること自体が難しい中で、スタート事業の中にも継続を前提としない枠組みがあってもいいのではないかというご意見だった。これについては、ここでは決定できないが、学生を応援する枠組み、加えて3年継続という前提でない、その年度内で完結する事業でも可というそういう枠組みをぜひ検討いただきたい。

委員1

このスタート支援に対する中堅組織向け助成はあるのか。

事務局

それに当たるものがふるさと納税で寄附を集める制度になる。

委員長

以前はあったが廃止になった。市として自立的に資金調達する力をつけてよということで、ふるさと納税の活用になったと解釈している。

委員1

交付率についての変更の件で、交付率をややこしくすることによって審査する側の負担が増えないかと思った。そもそも15万円が上限なので交付率が必要なのかと思う。他の補助金との併用についても1年目が不可、2年目以降可があまり分からないので、書き方として同一事業に対する二つの補助、助成金を使うことが不可や同じ勘定科目であれば不可といった書き方でもいいのかと思った。

委員長

制度の変更について、ご提案の内容でもいいと思うが書き方がすごくわかりにくいと思った。交付率と他の補助金の併用をするしないは、現状の制度のままでいったとしても、それは選択できるということを一言加えていただければいいのかなと思う。交付率についてはご意見いただいたので、今後ぜひ検討いただきたい。

(3) その他 かめおか市民活動推進センターの今後の運営について

事務局 資料に沿って市民活動推進センター検討会の報告および運営方針等について説明

資料：かめおか市民活動推進センター検討会概要

センターの運営方針や取組（案）

委員長

前回の委員会で、皆さんからご意見があった結果こういう場を今回初めて持っていただいたということで、一歩前進したかと思う。今報告いただいた内容に加えて、このセンターの運用方針や取り組みは案という形でご提示いただいております、今日ここでこれを決定する、何か決めるということではないのでご自由にご意見をいただけたらと思う。

委員1

センターの目的や役割は言語化をしないとそこに向かっていけないというところがあるので、言語化が必要で、さらに利用者数だったり、相談者数だったり数値的に定点観測するといったことが必要かと思っている。センターの運営方針や取り組みの案ということで、いただいているがセンター運営のゴールが少し小さいと感じた。中間支援組織としては、社会を変えるための課題解決に頑張っておられる団体の伴走支援をして、共助社会を作っていく、公助から漏れ出す人を救っていくという、大きなところに繋げていくという役割があるかと思っているので、もう少し大きいゴールを設定し、そのゴールに向かう事業自体は、細かく中長期計画というようなものを作って設定していけばいいのかと思っている。具体的な取り組みにつ

いては、こういったことからスモールスタートをさせていき、どこかのタイミングで市民ニーズに合う形で少しずつ強化をするなどしていけばよいと思う。

委員 7

今年からセンターの管理をしていて、前管理者からの引継ぎ、市民力推進課からのご意見等があり、今のところまだ活動団体からの要望やご意見をお聞きする場を持っていない中で、検討会でいろいろなご意見を頂戴したので、そういったことも活かしながらまた、先ほども申し上げたとおり、年明けには登録団体に集まっていたご意見、ご要望をお聞きしたり、いろいろな情報発信の媒体の修正、見直しをしながら、取り組みを進めていかないとけないと思った。

事務局

ここで、ご欠席の委員 9 から頂いた意見を紹介する。

委員 9 (欠席)

1) センターの運営のゴール

言わんとしていること、とても共感します。

「主体はあくまで住民。行政は協力者」というニュアンスを協調した文字並びにしてもよいと思いました。例えば、「地域課題には住民が取り組む。住民だけで難しいことは行政が協力する。それが当たり前という雰囲気づくり」とか、どうでしょう。

「地域課題には住民が・・・」、まさしくそれを自治と言うのだと思います。ゴールに向かうためには、これまでのセンター運営に比べ、より自治会など地縁系へのアプローチが必要そうですね。

2) センターの役割

ゴールと役割の間が遠いような印象を受けました。

このゴール設定の場合、「団体を育てること」よりも「意識を育てること」が上位になると思います。ですので、「住民の当事者意識向上」「行政・市民双方の協働意識向上」がセンターミッションとして掲げることになるのかもと思います。今書かれている「センターの役割」は、その下位の位置づけではないでしょうか。

3) 具体的な取組

委託 1 年目の取組みとして、全体的によいように思いました。

4) 相談員登録制度

よい取り組みだと思いますが、京都府の「専門家派遣事業」との違いが気になるところです。府制度に関する現状の不满がないのであれば、府の事業を活用して団体を支援することも並行して考えていくとよいと思います。

5) 交流事業

登録団体に限定しない方がよいと思います。

主の受益者設定として、非登録団体および登録間もない団体を意識するとよいと思います。登録歴の長い団体は、これまでのセンター事業のなかで繋がれる機会は十分にあったでしょうし、そうした機会を示されてなお繋がる気のないところは、独自で粛々とやっていきたいところでしょうから、あまり意識しなくてよいように思います。

6) 市民活動推進フォーラム

過去の成果として、フォーラム後参加者のなんらかの具体的なアクションに繋がっていないのであれば、以前されていた交付金活用団体の発表会をしてみてもいいかと思っています。オンラインとのハイブリットで実施し、アーカイブとして YouTube などで配信し続けるなどすれば、よりおもしろいかと思います。参加者アクションに目標を設定せず、当事者意識&協働意識の向上に目標設定するのであれば、フォーラムの形でもよいと思います。

7) 市と共催

市と共催という表現に違和感があります。「委託しっぱなしのほったらかしじゃないよ。市職員も汗をかくよ」という意気込みなのかもしれませんが、センター事業の委託者は市ですから、センター事業の主催者はどこまでいっても市ですよね。それとも、「フォーラムの開催は仕様書ではなく、市が直接運営で主催する催しに、財団が委託されていないけど共催するよ」という意味なのでしょうか。そうであれば、「センターの運営方針や取組（案）」に入れるのはへんだと思います。

委員長

質問が最後にあったが、このフォーラムの主催についてはどうか。

事務局

もともと市とセンターがそれぞれ同じような時期に市民向けにフォーラムを実施していたのだが、やるなら一緒に力を合わせて実施しようというところで市と共催という表現を使い始めた。委員9がおっしゃるように市が委託して実施してもらっている事業についてはどこまでいっても市が主催であり、共催という表現は違うのかと思う。

委員長

センターの委託先が変わってご尽力をいただいております、今までと違う形で第一歩を踏み出したということだと思うので、ぜひみなさんからもご意見をいただきたいと思う。またこの検討会をされたことはすごくよかったと思うので、これを1回で終わりではなくて、できたら定期的に、この委員の方にも声をかけて、評価するというよりは、より良くしていくための話し合いの場を作っていくのはとても重要かと思った。

委員3

センターのホームページを最近拝見していないが、少し前に作られた市民活動推進センターのページがあったかと思うが、今回委託先が変更になって受託団体のホームページの中の一部の事業としてセンターのページがあるのか。

委員7

当初のまま市民活動推進センターのホームページを継続している。

委員3

それは今後、特に変わらないのか。

委員7

それ自体は変わらないと思うが、よりよく情報発信できるような、見やすいホームページには刷新していきたいというふうには考えており、センターのページがどこかのホームページの一部に入ってしまうということはないようになっている。

委員3

さきほど委員9の意見にあったように、登録団体だけでなく、もっとたくさんの方に利用してもらえるようにという面で考えると、センターのページにもっといろいろな情報が載っていれば、そこだけ見て、行ってみようかと思ったり、ギャラリーかめおか3階にそのような場所があったのかと思ったりして知ってもらえると思うので、ホームページのほうもここを見たらわかるというページがあるといい。

委員1

センターの運営でこれだけのことをやっていくとなると、それなりの人的リソースが必要になってくると思うが、次年度に向けて予算折衝がされているのか。おそらくこれまでの予算では、実現するのは無理だと思う。

事務局

センターの予算については、増やしたいとは思っているが、以前から要望しても上げてもらえていないという経過がある。その中で、委託先を変更したことで、生涯学習かめおか財団の運営の中には、協働の推進も入っているので、そこうまく組み合わせることによって必要な資源が行き渡り、その上で取り組みを実現していけるようにしていきたいと思う。また順次この取り組みを進めて、例えば利用者数や新規の取り組みの増加というようなことで実績を残していければ、それによって今後、センター運営に係る予算を増やしていくということも可能かとは思っている。今のところすぐに予算が大幅に増やせるわけではないと思うが、そこも目標に置きながらできることから着実に進めていきたいと思っている。

委員長

今のご意見もごもっともで、やはりお金がないと動けないということも当然あると思う。そこをご検討いただき、もし無いのなら市民がどういう形で関われるか、別途制度の枠組みの検討も必要かとお話を聞いていて思った。また、ゴールについてのご意見があったがゴールとするとすごく曖昧になってくるので、おそらくビジョンかと思う。ビジョンに対してこのセンターでは何をやるのかということはできる範囲の中でより具体的にミッションや果たすべき使命ぐらいで、記載をされた方がいいのかと思った。このセンター運用方針や取り組みをどういう項目で整理していくのかということは、私も事例を提供したいと思う。検討をいただき、まずはあれもこれもぼんやりというよりは、全体的に何をやっていくのかというところのアクションプランも含めて検討いただく必要があるのではないかという印象を持った。

委員 1

財源の話でいうと、市の一般財源から充てていくことが難しいということなので、今ふるさと納税を活用されていて、団体がもらわれたものから3割が市に入る仕組みになっているが、市自体が一つのプロジェクトを作って、例えば、ガバメントクラウドファンディングにプロジェクトを載せて、亀岡の市民活動、NPO活動に使っていきますという枠を作ればいいのか。そうすることで少しずつでも財源を貯めていけると思う。

委員長

市の資金調達には税金だけではないので、そのあたりをぜひ市民に言うだけではなくて、自分たちも工夫をいただきたいと思う。今日は細かくセンターの運営方針や取り組みについて議論する時間もなく、この委員会がそこを細かく議論する場でもないと思うので、今年度初めて取り組まれたという個別の検討会で出たような意見を集めつつ、最終はやはり市の方で、しっかりした方針や取り組みを組んでいただきたいと思う。

4 閉会